

# 目 次

序	3	職員数の動き	44
発刊のことば		4  変えられた組織	46
写 真		第3節  種苗・根粒菌配布など	47
第1編  沿革		1  原種配布	47
第1章  創立の背景と経緯	3	2  根粒菌培養配布	48
第1節  創立前期の農業事情	3	3  天敵の導入と配布	48
1  中世までの阿波の農業	3	第4節  農業技術指導・教育	50
2  藩政時代の農業	3	第5章  昭和時代(戦後)	53
3  明治前期	5	第1節  当時の農業事情	53
第2節  前身機関(徳島支場・四国支場) の発足	6	1  概 括	53
1  徳島支場・四国支場の沿革	6	2  戦 後 I 期	55
2  徳島支場・四国支場の業績	7	(1) 概 況	55
第2章  明治時代(創立期)	9	(2) 食糧危機	55
第1節  当時の農業事情	9	(3) 農地改革	55
第2節  徳島県農事試験場の設立	12	(4) 普及事業の発足	56
第3節  組織・機構・施設(諸規程など)	12	(5) 新技術の開発・普及	56
第4節  種苗の配布など	18	3  戦 後 II 期	57
第5節  農業技術指導・教育	19	(1) 概 況	57
第3章  大正時代	21	(2) 新農山漁村建設総合対策事業	57
第1節  当時の農業事情	21	(3) 農業基本法の制定	58
第2節  組織・機構・施設(諸規程など)	26	(4) 農業構造改善事業	58
1  組織・機構の変遷	26	(5) 選択的規模拡大と農業所得の向上	59
2  土地・施設の状況	27	(6) 稲作転換	59
3  職員数の動き	28	(7) 新技術の開発・普及	60
4  研究体制の概要	29	4  戦 後 III 期	61
第3節  種苗の配布など	31	(1) 概 況	61
第4節  農業技術指導・教育	32	(2) 石油ショック	62
第4章  昭和時代(戦前)	34	(3) 水田再編対策	62
第1節  当時の農業事情	34	(4) 新技術の開発・普及	63
第2節  組織・機構・施設(諸規定など)	40	第2節  組織・機構	63
1  組織・機構の変遷	40	第3節  本場・分場・試験地の変遷	67
2  土地・施設の状況	42	1  本 場	67
		(1) 用地および施設	67
		(2) 大型備品	77
		(3) 職員数の動き	80
		(4) 科・係の変遷	80
		2  分場・試験地	86

(1) 生比奈柑橘栽培試験地	86	1 品 種	130
(2) 池田分場	86	2 栽培法	133
(3) 富岡分場	90	3 作 況	143
(4) 大山果樹試験地	91		
(5) 阿波原種農場	92	第3章 特用作物に関する研究	146
(6) 板東園芸試験地	93	第1節 研究の変遷	146
(7) 藍住分場	94	1 藍	146
(8) 海南分場	95	2 大豆	146
(9) 阿南筋試験地	98	3 ナタネ	146
第4節 運営組織	99	4 テンサイ	147
1 会議および広報	99	5 その他	147
2 委員会	99	第2節 研究業績	147
第5節 原種・根粒菌などの配布	100	1 藍	147
第6節 農業技術指導・教育	101	2 大豆	149
1 農業技術の普及指導体制	101	3 ナタネ	151
2 教育・指導機関	103	4 テンサイ	153
		5 その他	154
<b>第2編 研究業績</b>			
第1章 稲作に関する研究	107	第4章 飼料作物・草地に関する研究	155
第1節 研究の変遷	107	第1節 研究の変遷	155
1 明治時代	107	1 昭和時代(戦前)	155
2 大正時代	107	2 昭和時代(戦後)	155
3 昭和時代(戦前)	108	第2節 研究業績	156
4 昭和時代(戦後)I期 (昭和20年～昭和35年)	108	1 飼料作物	156
5 昭和時代(戦後)II期 (昭和36年～現在)	109	(1) 草種および品種	157
第2節 研究業績	109	(2) 栽培法	157
1 水稻に関する研究	110	(3) 作付体系・技術の体系化	159
(1) 品 種	110	2 草 地	160
(2) 栽培法	114	(1) 牧野改良	160
(3) 豊凶考照試験	124	(2) 適草種選定	161
(4) その他	126	(3) 草地造成(含維持管理)	161
2 陸稲に関する研究	127	(4) 山地酪農技術の体系化	162
(1) 品 種	127		
(2) 栽培法	127	第5章 野菜に関する研究	165
第2章 麦作に関する研究	129	第1節 研究の変遷	165
第1節 研究の変遷	129	1 明治時代	165
1 明治・大正・昭和(戦前)時代	129	2 大正時代	165
2 昭和時代(戦後)	129	3 昭和時代(戦前)	165
第2節 研究業績	130	4 昭和時代(戦後)	166
		(1) I期 昭和20年～昭和35年	166
		(2) II期 昭和36年～昭和48年	167
		(3) III期 昭和49年～現在	168
		第2節 研究業績	169

1 果菜類	169	第8章 土壌・肥料に関する研究	219
2 根菜類	177	第1節 研究の変遷	219
3 葉茎菜類	184	1 明治時代	219
4 施設・資材・育苗など	190	2 大正時代	220
(1) 施設・資材	190	3 昭和時代(戦前)	220
(2) 育苗	191	4 昭和時代(戦後)I期	221
(3) 施肥	192	(昭和20年～昭和35年)	221
(4) 土壌改良剤	192	5 昭和時代(戦後)II期	221
(5) 除草剤・植物生育調節剤	192	(昭和36年～現在)	221
(6) その他	193	第2節 研究業績	222
5 大正・昭和の現地試験	193	1 水稲	222
(1) 委託栽培	193	2 麦	226
(2) 園芸指導地ならびに試験地	193	3 野菜	228
6 原種配布	193	4 果樹	231
第3節 イモ類に関する研究業績	195	5 飼料作物・特用作物	232
1 サツマイモ	195	6 最近における主要研究成果	233
2 ジャガイモ	197	第3節 土壌調査事業	249
第6章 花きに関する研究	199	1 酸性土壌調査事業	249
第1節 研究の変遷	199	2 施肥標準調査事業	249
1 明治・大正・昭和(戦前)時代	199	3 低位生産地改良施設事業	250
2 昭和時代(戦後)	199	4 開拓地土壌調査	251
第2節 研究業績	202	5 施肥改善事業	252
1 一・二年生草花	202	6 土地改良施行地区土壌調査	253
2 宿根草花	203	7 地力保全対策事業	254
3 球根草花	206	(昭和47年から土壌保全)	254
4 花木類	211	8 国土調査	258
5 育種	211	9 その他の各種調査など	258
6 その他	212	第9章 病害虫に関する研究	259
第7章 果樹に関する研究	213	第1節 研究の変遷	259
(昭和30年7月まで)	213	1 明治時代	259
第1節 研究の変遷	213	2 大正時代	259
1 明治時代	213	3 昭和時代(戦前)	260
2 大正時代	213	4 昭和時代(戦後)	260
3 昭和時代(戦前)	214	第2節 研究業績	262
4 昭和時代(戦後)	215	1 病害	262
第2節 研究業績	215	(1) 稲	262
1 果樹品種の見本栽培	215	(2) 麦	265
2 ミカン	216	(3) イモ類・マメ類・特用作物	267
3 カキ	216	(4) 野菜・花き	269
4 ナシ	217	(5) 果樹	275
5 クリ	218	2 虫害	276
6 ピワ	218	(1) 稲	276

(2) 麦	281	9 農作物の流通	332
(3) イモ類・マメ類・特用作物	281		
(4) 野菜	283	第12章 農業機械に関する研究	333
(5) 果樹	287	第1節 研究の変遷	333
(6) 土壌線虫	287	1 明治時代	333
3 農薬	288	2 大正時代	333
(1) 殺菌剤	288	3 昭和時代(戦前)	334
(2) 殺虫剤	290	4 昭和時代(戦後)	334
(3) その他	292	第2節 研究業績	338
第3節 病害虫発生予察事業	292	1 水田の耕うん整地	338
1 発生予察事業の変遷	292	2 畑地の耕うん整地	339
2 発生予察事業の成果	294	3 急傾斜畑における耕うん揚土作 業の機械化	339
第4節 天敵の導入ならびに配布事業	303	4 播種の合理化	341
第10章 農業公害・農薬残留対策・農 薬分析等に関する研究	308	5 田植の機械化	342
第1節 農薬残留対策と農薬の分析等 に関する調査・研究	308	6 栽培管理	344
第2節 土壌汚染に関する調査	312	7 刈取および収穫の機械化	345
第3節 大気汚染による農作物被害に 関する調査・その他	313	8 脱穀	348
第4節 農業公害に関する調査・その他	314	9 乾燥調製	348
第11章 農業経営に関する研究	315	10 加工用農機具	351
第1節 研究の変遷	315	11 運搬	351
1 明治・大正・昭和(戦前)時代	315	12 作業体系	352
2 昭和時代(戦後)Ⅰ期 (昭和20年～昭和35年)	316	13 その他	353
3 昭和時代(戦後)Ⅱ期 (昭和36年～昭和48年)	316	第13章 原原種・原種の育成配布	354
4 昭和時代(戦後)Ⅲ期 (昭和49年～現在)	317	第1節 原採種事業の変遷	354
第2節 研究業績	317	1 明治時代	354
1 稲・麦栽培の経済性試験	317	2 大正時代	354
2 果樹に関する経済性調査	321	3 昭和時代(戦前)	355
3 徳島県農業経営の特質	322	4 昭和時代(戦後)	355
4 営農試験地事業	322	第2節 原種の配布方法と採種圃の設置	356
5 地域農業の構造改善と経営類型 の策定	325	第3節 奨励品種の変遷と作付動向	360
6 選択的拡大と農業経営の改善	327	1 水稲	360
7 地域農業の開発計画	330	2 麦類	363
8 水田転作と施設果樹・イチゴの 経営改善	331	3 その他	364
		第14章 池田分場における研究	369
		第1節 研究の変遷	369
		第2節 研究業績	370
		1 主要畑作物	370
		2 サツマイモ・ジャガイモ	371
		3 特用作物	372
		4 山間野菜	374

5 畑作	375	2 野菜	394
6 気象観測	376	第2節 研究業績	394
第15章 海南分場における研究	377	1 水稲	395
第1節 研究の変遷	377	2 麦およびナタネ	398
第2節 研究業績	378	3 野菜	400
1 キュウリ	378	4 稲麦の原種の生産と配布	401
2 ショウガ	379	第19章 大山果樹試験地における研究	
3 イチゴ	379	(昭和23年～昭和30年7月)	402
4 パイナップル	380	第1節 研究の変遷	402
5 テッポウユリ	380	第2節 研究業績	402
6 れき耕栽培	380	1 落葉果樹全般	402
7 その他	381	2 カキ	403
第16章 阿南筍試験地における研究	382	(1) 生理・栽培法	403
第1節 研究の変遷	382	(2) 脱渋・貯蔵および果実の黒変防止	403
第2節 研究業績	383	(3) 病害虫	403
1 栽培改善	383	第20章 阿波原種農場における業績	
2 施肥	386	(昭和24年～昭和44年)	405
3 土壌改良	388	第1節 業務の変遷	405
4 病害虫	388	第2節 研究業績	405
5 生育障害	389	1 原種配布	405
6 竹材利用	390	2 試験研究	406
第17章 生比奈柑橘試験地における		(1) 稲	406
研究(昭和8年～昭和30年		(2) 麦	406
7月)	391	(3) その他	407
第1節 研究の変遷	391	第21章 板東園芸試験地における業績	
1 昭和時代 I期		(昭和27年4月～昭和29年3	
(昭和8年～昭和23年)	391	月)	408
2 昭和時代 II期		第1節 変遷	408
(昭和24年～昭和30年)	391	第2節 業績	408
第2節 研究業績	391	1 飼料作物の採種	408
1 系統・品種	391	第22章 藍住分場における研究	
2 栽培法	392	(昭和27年6月～昭和46年6	
3 施肥・土壌改良	393	月)	409
4 病害虫の防除	393	第1節 研究の変遷	409
5 貯蔵	393	第2節 研究業績	410
第18章 富岡分場における研究		1 イチゴ	410
(昭和13年～昭和46年6月)	394	2 ナス	411
第1節 研究の変遷	394	3 シロウリ	413
1 主要作物	394	4 キュウリ	414

5	ハクサイ	414
6	ニンジン	414
7	レタス	415
8	ハナヤサイ	416
9	ナタマメ	416
10	れき耕	416
11	採種	416
12	その他	416

### 第3編 農業機械研修・教育機関など

#### 第1章 農業機械研修

第1節	農業機械化センター設立の経緯と背景	421
1	設立の経緯と背景	421
2	石井町(農業試験場内)への移転	422
3	農業試験場に統合	423
第2節	組織・機構・職員	423
第3節	施設・予算	425
1	用地・建物	425
2	施設の配置状況	425
3	研修用機械・器具	426
4	予算	426
第4節	研修の種類と実績	427
1	種類	427
2	実績	428

#### 第2章 農業教育機関

第1節	明治時代	429
1	徳島県農事講習所	429
2	徳島県農事試験場巡回講習	429
第2節	大正時代	430
1	農会技術員養成講習所	430
第3節	昭和時代	430
1	徳島県農業技術員養成所	430
2	農会技術員養成所	431
3	徳島県立農業技術員養成所	431
4	徳島県立農事試験場練習生	431
5	徳島県たばこ耕作技術員養成所	432
6	徳島県立農業講習所	432
7	徳島県農業大学校農業分校	433
付	その他の農業教育施設	434

### 第3章 併設された他の機関および施設

第1節	普及関係機関および施設	436
第2節	その他の機関	437

### 第4編 天皇陛下巡幸および行事・催物・その他

1	天皇陛下巡幸	441
2	行事および催物	441
3	学位および表彰	443

### 第5編 資料

#### 第1章 試験研究項目一覧

1	作物科・育種科関係	447
(1)	稲	447
(2)	麦	449
(3)	特用作物・飼料作物	451
2	野菜科関係	452
3	花き科関係	459
4	旧園芸部のうち果樹関係	461
5	農芸化学科関係	462
(1)	施肥法および土壌生産力向上	462
(2)	土壌調査	469
6	病虫科関係	472
(1)	病害	472
(2)	虫害	475
(3)	発生子察事業	477
7	環境科関係	478
8	経営科関係	478
(1)	農業経営	478
(2)	草地・飼料作物	479
9	農業機械科関係	481
10	池田分場関係	484
11	海南分場関係	487
12	阿南筋試験地関係	488
13	旧生比奈柑橘試験地関係	489
14	旧富岡分場関係	489
15	旧大山果樹試験地関係	491
16	旧阿波原種農場関係	491
17	旧板東園芸試験地関係	492
18	旧藍住分場関係	492

第2章	研究業績一覧	494	第4章	出版物目録	537
1	作物科・育種科	495	1	農事試験場成蹟臨時報告	537
2	作物科・経営科(草地・飼料作物)	496	2	農事試験成蹟報告	537
3	野菜科	497	3	徳島県農業試験場業務年報	537
4	花き科	500	4	特別報告	537
5	旧園芸部のうち果樹関係	501	5	徳島県農業試験場試験研究報告	537
6	農芸化学科	501	6	徳島県農業試験場特別報告	537
7	病虫科	502	7	農作物有害動植物発生予察事業 年報	537
8	環境科	510	8	農事改良資料	537
9	経営科	510	9	農家の乗	538
10	農業機械科	511	10	場ニュース	538
11	池田分場	511	11	要覧(昭和20年以前発行分)	538
12	海南分場	512	12	その他の出版物	538
13	阿南筭試験地	512	第5章	年表	552
14	旧藍住分場	513	第6編	追想	
15	土壌図	513	編集後記	594	
第3章	組織・機構・人事・予算	515	執筆者一覧	595	
1	機構変遷図	515			
2	職員名簿	519			
(1)	旧職員名簿	519			
(2)	現職員名簿	529			
3	人員の変遷・決算額	532			

